

議会報告会の質疑応答の概要

【参加者】市の広報紙を見ると予算が厳しくなるとあるが、その点の議論はあったのか。

【委員】財源の不足は、人口減少に入ってくるので、今後充分には望めない。

【参加者】中核市、保健所の議論はどうか。

【委員】保健所は5年間神奈川県からお金がつく。西宮市の例では、必ずしも一市単独での保健所経営ができない。幹部職員が退職し、人材不足となると中核市といっても運営できない。保健所が開所され軽々しく判断できることではない。今後、新総合計画に位置付けしていくと思う。今期の予算には入っていないが、委員会でも質問した。

【参加者】自主財源の確保も厳しいが、市が自由に使えるお金はどのくらいあるのか。

【委員】自主財源について報告会資料の7ページと10ページの性質別でも分かるように福祉的支出が増加している。新規事業に使えるお金は2%。全体の750億円からすると5%といえる。

【委員】補足説明になるが、市長は2%位あると言っていた。

【参加者】財政規模が拡大している今年度の予算事業計画の見直しが必要である。そうしないと財政規模が膨らむ。企業誘致はどうか。ロボット特区の戦略などあるのか。

【委員】萩園に産業系を誘致して進めている。

【委員】企業誘致については税金の減免や交通面も整備され誘致するのに適している。住宅地と企業地とに区画整理されている。

【参加者】人件費が26年度から増えている。人件費が増えると将来負担比率につながり、大変な負担となる。費用対効果を考えて事業を進めてほしい。

【委員】人件費についてラスパイレス指数としても神奈川県の中では落ち着いており、1%である。昔より良くなっている。職員人数を増やしていても業務遂行するには足りていない。

【委員】地方債残高は28年度人口で一人当たり21万7000円、29年度は41万5000円と後世に負担をかけないようにとの議論はあった。

【参加者】人件費、物件費、委託費の合計を見てチェックしてほしい。

【委員】物件費や委託費の中には人件費も入っている。本末転倒にならないようチェックしている。

【参加者】 報告会資料19ページの重要な事業に小児医療費があるが、拡充なのか。

【委員】 小児医療費について、議会として会派を超えて市に提案してきた。行政側ではそれに関連し、大規模の事業については、遅らせたり、廃止、縮小を視野に検討していくと説明している。

【参加者】 道の駅が拡充となっているが、どうしてか。

【委員】 道の駅の拡充については、圏央道との接続となる重要な場所と認識している。市民からのパブリックコメントも155件、46人から意見が出ている。

【委員】 拡充とあるが、ただ大きくするという意味だけではない。農水地域の固定資産税も関係している。

【参加者】 道の駅について、平塚市は住民が環境悪化を訴え中止となった。茅ヶ崎市は市民に道の駅をやりますと突然言って、市民の税金を使うのに市民の周知はどうなっているのか。

【委員】 教育経済常任委員会で道の駅に関する政策提言したが、市長の意見を議会が追随しているわけではない。市民の利便性や市としての利益も考えた。市民からも意見を聞いて提言にまとめた。